

## 天津市北大港ダム湖に現れた大群のコウノトリ

張淑<sup>1</sup>・張正旺<sup>2</sup>・袁良<sup>3</sup><sup>1</sup>中央民族大学生物化学系<sup>2</sup>北京師範大学生命科学学院<sup>3</sup>天津鉄路1中

訳 福井和二

1999年3～4月筆者らが行なった天津北大港ダム湖での水鳥調査の期間中、3月8日午前9:00時、湖の南堤、東部の沙井子郷近くのヨシの茂った岸辺に休んでいるコウノトリ(*Ciconia boyciana*)の大群を発見した。すぐ後で、筆者らが船によりこのアシ原に近づき観察したところ約800羽を数え、まさに壮観と言うべきものであった。その後連続的に観察を行なったところ、この一群は毎日日中は人の少ない湖の東部にあるアシの丈が高く身を隠しやすい場所を選択し、休息、あるいは採食をしていた。もし漁船が近づいたりすると一斉に飛び立ち、付近を巡回しながら漁船の去るのを待って、またもとの場所にもどった。

4月上旬には北へ向かって渡りを始め、筆者らが4月13日船で観察を行なったときには約70羽がとどまっていた。当地の漁民らによると、コウノトリは2月末頃氷が溶け始めると、湖に渡ってくると説明していた。これによりこの一群は南方の越冬地から渡ってきて、ここを中継地として約50日ほど滞在し、北へ渡っていくことがわかった。

天津北大港ダム湖は、天津市南部の大港区(38°45'N, 117°29'E)にある大型の平原ダム湖で、面積は1.49万hm<sup>2</sup>に達する。最近連続的な干ばつのためほとんどの水域で水深が1mに充たず、ヨシ原が多くなっている。ダム湖の養魚面積は0.8万hm<sup>2</sup>で、これが涉禽のよい採食場所になっている。

コウノトリの繁殖は現在、極東ロシア、我が国黒竜江省、吉林省および内モンゴル自治区で、越冬は我が国江蘇、安徽、江西、湖北、湖南各省の大型湖沼、例えば洪澤湖、升金湖、陽湖、洞庭湖などで、天津北大港水庫もわずかな数ではあるが越冬している<sup>[1,2]</sup>。コウノトリの個体数は現在極めて少なく、その繁殖個体数は700～750つがいと言われており、我が国では70～80つがい<sup>[1]</sup>が繁殖している。我が国での越冬総個体数は2000～2500羽<sup>[2]</sup>とされている。

現在、コウノトリは世界的に絶滅が危惧される状態で、CITES条約付録IとICBPレッドデータブックに収載されている。我が国でも国家I級重点保護野生動物に指定されている。その主な渡り経路は吉林省、遼寧省さらに河北省北戴河および山東省微山湖を経て南へ渡る<sup>[2]</sup>。北戴河と遼寧省の双台子河で発見されたのはより大きい渡りの群<sup>[1,2]</sup>れで、天津で見られた800という数はこれに次ぐものである。この発見はコウノトリの渡りの経路の研究に新しい資料を提供し、同時に我々はこの中継地の研究と保護の重要性を呼びかけ関心と呼び醒し、コウノトリの渡りの経路の系統的な研究と保護にあたっているとある。